

## 《7月12日タウンミーティングの要旨》

司会進行	安田 靖 麻生まちづくり会議副代表世話人
麻生まちづくり会議の活動と課題の報告	森川幹夫 麻生まちづくり会議代表世話人

司会：今日は阿部市長をお迎えし、麻生まちづくり会議拡大世話人会として懇談会を開催します。折角の機会なので、外の暑さに負けぬよう意見交換を行えればと思います。

### 1 市政についての基本的な考え方

市長：

- ・麻生区は多摩区から分区して今年で20年目ということで、その間人口が少しずつ増えたことにより、多様な問題が出てきていると思います。
- ・一方で、麻生区の住宅地は素晴らしく、計画的に土地区画整理事業が行われた結果であると思っています。それには、地域の方々や、何より土地所有者の方々の努力があったからで、これらの方々のまちづくりに対する先見性について感謝を申し上げます。
- ・川崎市7区の中で、麻生区は緑の多い区の一つであり、麻生区だから住むという方も多いと思います。緑の中で暮らすという点では、川崎市の他区や町田市などに負けない環境だと思っています。
- ・一方では残念なことに、手紙で住所を書く場合「川崎市麻生区」とは書かず「麻生区」から書き始めるなど、川崎市民としての意識が薄い方もいると聞きます。
- ・例えば、川崎駅西口に音楽専用の文化ホールを作る予定ですが、そこに麻生区の音楽に関心のある方が聴きに訪れるなどして、麻生区の芸術活動と川崎駅西口の文化ホールが結びつくようになればと思います。
- ・麻生区は「芸術のまちづくり」で、十分に特徴を持っている所だと思いますし、東京の世田谷区に負けない本格的な「芸術のまち」にしたいと思っています。
- ・このような芸術活動のつながりなどをもとにして「川崎市の中の麻生区」という意識を是非持っていただければと思います。
- ・麻生区のまちづくりのキーワードとして、開発と保全があり、今後も人口が増えることから開発と保全のバランスについて考えることは、まちづくりを行う上で避けて通れない、重大な課題であると思っています。
- ・麻生区では緑の残る場所が民有地であることが多いので、行政で全て買い取って保全していくには今の財政事情から難しいこともあり、開発が進むとどうしても今の緑は減っていくこととなります。
- ・そこで今、環境局で緑のカルテを策定していますが、例えばそれに基づいて、緑を積極的に保全していくリストを作っていくことなどが考えられます。
- ・緑と開発という面で、具体的な例として万福寺の土地区画整理事業を挙げますが、私も万福寺の開発については、以前は反対でした。また、区民の皆さんの中にも反対の意見が多くあります。
- ・しかし、実際に土地所有者の方に話を聞いたところ、相続問題で次々と民有の緑地などが売却されていく、しかも地区全体としては地主が1人ではないので、このまま開発が進むとイン

フラが十分に整備されないまま局所的に高層住宅などの開発が行われてしまい、ひどい環境になってしまうとのことでした。

- ・緑を最大限保全しつつ、事業の採算性を確保する方式をとるためには、一定面積以上の計画的な開発が必要となるわけで、おそらくこういう話をしっかりと市民の皆さんにすれば納得してくださると思っています。
- ・これから麻生区では、都市計画マスタープラン麻生区構想を区民の皆さんでつくられるわけですが、意見が異なる場合でも、議論を尽くせばお互いに理解し合える部分もでてくるわけで、十分議論しながら麻生区の将来を考えていただければと思います。

## 2 麻生まちづくり会議の活動と課題(麻生まちづくり会議 代表世話人からの報告)

- ・麻生まちづくり会議は区民が行政と協働し、麻生区の住み良いまちづくりを進めるために平成12年2月に設置され、福祉、生活・コミュニティ、緑・環境の3専門部会と広報部会を中心にまちづくり活動を進めています。
- ・今年度の方針として、以下の5つの課題を中心に活動を進めたいと思っています。

### (1) 区民誰もが安心して生き生きと暮らせるまちづくり」

#### <バリアフリーのまちづくり>

- ・今年度は麻生区内のバリアフリーマップ、新百合ヶ丘駅周辺の駐輪場マップづくりと、交通渋滞の調査や渋滞発生要因の分析を行い、その結果をまとめ、できれば公表したいと思っています。

#### <青少年・高齢者などの居場所づくりの推進>

- ・昨年度に引き続き青少年による自主的なコンサートを行い、また安心して子育てができる、年輩者が気兼ねなく集まることが出来る居場所づくりの実現の検討、推進を図ります。

#### <障害者への自立援助と自立意欲の促進>

- ・高齢者の方々などを対象にした「ふれあい郵便物集荷サービス」, 「ふれあい散歩の会」の活動を拡大し、65歳以上の区民を対象としたファッションショーを開催したいと思います。

### (2) 緑の保全と区民に優しい環境づくり」

#### <緑のマップづくり, 公園の維持管理, 黒川農業公園構想への提言>

- ・区内の緑をマップに落とす活動や公園の維持管理について行政と協議しながら考えていきます。さらに、「黒川農業公園構想」の進捗を図ることを考えています。

#### <ごみの削減・分別・リサイクルの推進, ダイオキシンの削減に向けた活動>

- ・ごみの削減やリサイクル化など、循環型社会を作り上げる活動や「リサイクルパークあさお」の建設計画について、行政や地元自治会の意向を聞きながら話し合いを進めたいと思います。

### (3) 交通不便地域, 交通渋滞多発地域の解消」

#### <コミュニティバス導入の促進>

- ・コミュニティバスの導入について実情調査, 町丁別高齢者数の把握, バス事業者との連携などを行い, 候補路線の絞り込みをし, 行政に対し提言を行いたいと考えています。

#### <交通渋滞多発地域の調査>

- ・交通渋滞多発地域の把握と発生原因の調査やコミュニティ道路の調査, 川崎縦貫高速鉄道建設計画に対しては, 区民の立場による採算性の勉強などを行っていきます。

#### (4) 次期まちづくり組織の設立のための準備活動」

- ・今年度は会議が最終年度になるので、今までの活動の仕上げや平成15年の4月以降のまちづくり組織のあり方の検討などを進め、また、新組織の来年5月発足を目指し、次期まちづくり組織の準備委員会を立ち上げたいと思います。

#### (5) 行政とのパートナーシップによるまちづくり」

- ・麻生区役所内の「区民活動支援ルーム」については、本年3月下旬に区役所から運営の委託を受け、運営委員会を整備しましたが、来年度は、区民による自主運営を目指しています。
- ・また、「麻生区地区カルテ調査作成委員会」、「新百合ヶ丘駅南口デッキ補修等に関するワークショップ」、「都市計画マスタープラン麻生区構想検討委員会」には、まちづくり会議から委員を送り行政とのパートナーシップにより事業を行っている状況です。

### 3 市長からのコメント

#### 麻生まちづくり会議の活動と課題について

- ・麻生まちづくり会議では、市民の視点に立ったきめの細かい活動をしていると感じました。そういった市民に身近な課題や活動は行政では気づきにくいこともあるので、これからもそのような視点を大事に活動を行っていただければと思います。
- ・また、実に多彩な活動が行われていますが、市の事業は限られた予算で行いますので、麻生区のまちづくりの将来像を見据えながら、優先順位付けを行って、それを絞り込み、何年かかけて行っていかざるを得ません。

#### 具体的な課題について

##### (環境問題について)

- ・麻生区内の産業廃棄物処理施設からのダイオキシン類発生問題に関しては、今後も調査の結果を公表して、行政として対応できることは迅速に、徹底的に行いたいと思います。
- ・こういった問題で、最後の味方は市民であると思います。マスコミが情報を広めるわけですが、行政がそれらの声に後押しされて、市民とマスコミの力で行政が行うべきことをしたと思います。
- ・「リサイクルパークあさお」のごみの焼却方式については、分別を前提とした従来方式で行うのも良いのですが、行政として最終的に責任を持って行う場合、分別収集体制に合わせると対応が間に合わなくなるおそれがあります。
- ・したがって、専門家による委員会で選定した処理方式を採用するかしないかは、選定したものを公開して、市民の皆さんに参加してもらい、比較してどちらが良いか検討をしてもらう形で進めたいと思います。

##### (コミュニティバスについて)

- ・麻生区では坂が非常に多いので、コミュニティバスが必要だと思います。
- ・皆さんからどの地域にコミュニティバスを走らせれば良いかモデル案を何本かに絞っていただければと思います。
- ・路線の選定にあたっては、利用する市民の方が最終的な案を出すのが良いと思います。宮前区の新バス路線は、そうした方法で実現したわけで、麻生区でも同様の方式も考えられます。

#### 4 意見交換 ( ) は、まちづくり会議会員の発言となります。)

##### ダイオキシン類の問題について

ダイオキシン類発生の問題については、行政の方で真剣に取り組んでいるのを理解していますが、南側の横浜市の住民は、被害者意識を持っているので、真剣に考えていただければと思います。

こういった問題は、市長の政治的決断がないと対応できないと思いますので、そういった現状を認識していただければと思います。

##### 緑の保全について

万福寺の開発については長い経緯があると思いますが、区民として過去数年間の情報の蓄積がわかりませんので、情報センターのようなものを作っていただき、適切な情報を判断材料として提供して欲しいと思います。

麻生区の現状として開発で自然を壊す一方、他の地域ではほたるをいっぱい育てています。緑を上手く残せれば、きれいなほたるが育つ自然環境を守れると思います。

市が買い取った緑地については、放置されている場所が多いように思いますが、麻生区は丘陵が多く、里山が残っておりますので、里山の管理活動と連携した、市有地管理の仕組みなどをもう一度検討していただきたいと思います。

市長：緑地を市で買い取った場合、市の力でしっかりと手入れする必要があると思いますが、緑地の維持管理については「市民健康の森」が良い例で、多くの人が緑地を利用しながらその中で維持管理していく方式がとれば良いと思います。

##### 公園の有効活用などに関する横断的調整について

お年寄りが公園を利用してベンチでくつろいだり、若いお母さんが公園に出向きにくい状況があるので、公園の下草狩りなどを通じて、これらの人々も参加できる多面的な公園利用のあり方を検討することが必要であると思います。

その場合、縦割りではなく行政側で公園を有効活用するプロジェクトチームを作ると話が進むのではないかと思います。

市長：区役所で区政全体の調整をできるような権限を区長に持たせ、例えば、区長の直轄のグループで、担当者1人を決めて、部局間の調整を行い、まとまったときにプロジェクトを立ち上げるような体制にできればと思っています。

予算についても区で独立して執行できるものを区政推進費として使えるようにするなど、区役所機能の強化を進めています。

区役所によるプロジェクトチームを具体的に作るとしたら、いつ頃可能なのか教えていただきたいと思います。

市長：予算をどういった仕組みにするかという課題がありますが、やり方次第では今すぐできると思います。しかし、今までに先例が無いのでそういったマニュアルや仕組みを作る必要があるかと思っています。

麻生区でそのような仕組みを実現したい場合、仕組みをつくるプロジェクトを市民の皆さんと一緒につくっていく方法もあると思います。

#### 市街化調整区域について

川崎市全体から見て麻生区の市街化調整区域の問題をどう認識し、将来的にどうしていきたいか教えて欲しいと思います。

市長：市街化調整区域については開発抑制の方向で考えていますし、10～20年先まで見据えて緑を残していく必要があると思います。しかし、農地として残していくことは難しいと思いますので、市民農園にしたりすることが考えられますが、それは検討課題になると思います。

#### 新百合ヶ丘駅南口デッキの区民提案について

新百合ヶ丘駅南口デッキの提案は、宮前区のバス路線と同様、市民から提案したもので、何回にも渡り実地調査をし、健常者だけでなく、視覚障害者や車椅子の方の意見も聞いて提案を行いました。

また、土木事務所や区政推進課とも一緒にデッキを見て回ったので、行政が身近に感じられました。提案後、土木事務所で直ぐに郵便局前の段差に板を引いてくれた対応がすごく良かったので、期待をしています。

提案書が市長のもとにも渡っていると思います。提案が実現したら市民としてもやり甲斐があったと感じられるので、見ていただき実現をお願いします。

#### 市民の声の反映方法について

就任時に市長は「市民の声を聞いて、市政を行う」との話をしていたと思いますが、市民の提案に対して行政がどうするのかなど、それに対する回答が2～3年くらい待っても帰って来ないのが現状で、市民の声を返す仕組みが必要かと思います。

市長：長期間かかる施策などに対して、一番大切なのはその途中経過を市民に報告をすることだと思います。また、市民参加で何かを行う場合は情報提供をしっかり行いたいと思っています。

#### アートセンターについて

商業を活性化する上で、本来であれば拠点を中心に、商業施設は外に配置すべきだったのですが、新百合ヶ丘駅の開発では、それが逆になってしまったので、アートセンターを建設する場合は、核となる施設を中心に据えるようにして欲しいと思います。

「芸術のまち構想」の中で、アートセンターに音楽ホールを建設する構想もあったと聞いていますが。

市長：アートセンターと音楽ホールは別の話になります。アートセンターは新百合ヶ丘の音楽だとか、映画、学校などの集積をもとに考えていくのが良いと思いますが、今は芸術のまち構想の提言を受けている状況です。

#### 「わくわくプラザ事業」について

市長：余談になると思いますが、留守家庭児事業については、市内でも多くの意見があり、説明が十分でない面もあって誤解を受けていると思われるので、この場を借りて説明をさせてください。

留守家庭児事業の利用者は現在4,000人程度がその対象になっております。市全体で4,000人のために10億円くらい費用がかかる一方で、サービスを受けられない人が万人単位でいる

わけです。

そこで、今までの限定的なやり方に代えて、小学校単位で多くの子どもたちが参加でき、より多くの方が施策の恩恵を受けられるようにしようというのが「わくわくプラザ事業」になります。わくわくプラザ事業の対象は、全児童約63,000人です。

川崎市では学童保育サービスが無料ですが、町田市などではいくらかお金を負担しています。無料だからサービスを受けられない人がいるのでは。

市長：有料にした場合、いろいろな要件がでてきて、職員の数を増やさなくてはいけないなどの問題も考えられるので、そうするとますます閉鎖的になって特定の人たちだけのものになってしまう可能性があるのではないかと思います。

司会：先程市長は麻生区民の住所の書き方を例に、区民は川崎市民として意識が少ないことを言われていたように思われます。

ただ、私たちも「川崎市麻生区」と思いたいのですが、川崎は、あまりにも遠すぎる感じがするのです。

ともすれば我々も、東京都麻生区や横浜市麻生区になりたがることを市長には意識していただければと思います。

市長、本日は本当にありがとうございました。

問合せ

麻生区役所区民生活部区政推進課

Tel : 044-965-5116

Fax : 044-965-5200